



第23号

開 鐘

KE - JOU

沖縄県立芸術大学広報誌

沖縄で

浦崎 翔太さん

(大学院造形芸術研究科
生活造形専攻デザイン専修修了)

「自分から湧き上がるものをかたちに」

大学院一年次に「かたぶい（沖縄の方言：局地的な雨）」をイメージして制作した“Cloud Chair”が、国際的な審査会「A'Design Award and Competition」（本部・イタリア）の家具部門で金賞を受賞。利便性が求められるデザイン業界において、浦崎さん自身が大切にしている“見た時の楽しさ”を追求した作品が評価されたことについて、「世の中の人がかようなものもありだよなって認めてくれた感じがして、今後も続けていきたいという意思が強くなりました」と語ります。

浦崎さんが学部生の頃、非常勤講師だった高田浩樹先生と出逢いました。「自分の目指している方向の先におられる方だと思いました。就職が決まらなかったら弟子入りさせてもらうつもりだったのですが、専任教員として着任されることを知り、大学院への進学を決めました」。素材の扱いなど一人では手に負えないことが多く、先生のフォローが心強かったそうです。「先生を信じてついていったおかげで道が開けたことが沢山ありました。これから学生になる皆さんにも経験豊富な先生方のアドバイスを活かしてほしいです」。

本学からは初となるヤマハ株式会社のデザイン研究所に就職。プロダクトデザイナーとしてプロジェクトチームの一員となり、幅広い領域での事業展開に携わります。「仕事をしっかりやって専門家になると同時に、これからも自分の中から湧き上がるものをかたちにしていきたいです」。



“Cloud Chair”



WEB サイト

“Shota Urasaki Design & Story”

完成品に至るまでの試行錯誤の様子が公開されています。

得る思考

長浜 真輝さん

(音楽学部邦楽専攻4期卒業
大学院音楽芸術研究科
舞台芸術専攻邦楽専修修了)



写真：志鎌康平

長浜真輝さんは、高校時代、野球部に所属し、甲子園を目指して練習に明け暮れる日々を送っていました。高校3年生の時、三線の師匠から県立芸大で三線を学べることを知り、音楽学科邦楽専攻(現・琉球芸能専攻)に進学。

卒業後、舞台芸術専攻邦楽専修(現・琉球古典音楽専修)を修了し、現在は、社会福祉施設で働いています。また、地元の読谷村で地域の子どもたちに三線を教えています。

「音楽とともに生きるということ」

「まーすけーい歌」が
紡ぐ記憶の旅

ヨミタン大学×県立芸大
読谷のうた

「まーすけーい歌」が
紡ぐ記憶の旅

トークセッション
長浜真輝さん(音楽学部邦楽専攻4期卒業)
呉屋淳子(音楽学部邦楽専攻4期卒業)
向井大策(音楽学部邦楽専攻4期卒業)

長浜自治会のみなさん
(演奏)

2020年
11月1日(日)
13時半開演(15時開演) 15時終演

読谷村文化センター
鳳ホール



長浜さんは、デイケアのレクリエーション・タイムに、大学時代に学んだ古典音楽や「谷茶前」などの舞踊曲を演奏するそうです。ベンチに腰掛けて、長浜さんの奏でる三線の音色と歌声に静かに耳を傾ける利用者のお年寄りたちの姿に、長浜さん自身も音楽と自分とのつながりを再確認すると言います。

2020年2月、長浜さんは祖父がかつて歌っていた読谷村長浜の古い歌と出会いました。「まーすけーい歌」という長浜からかつて泡瀬にあった塩田までの道行きの様子を歌った歌です。約30年ぶりに懐かしい祖父の優しい歌声に再会した長浜さんは、生まれ育った長浜で、地域の人たちとともにこの歌を歌い継いでいきたいと考えています。

大学時代は、自分の声にコンプレックスを感じていたと語る長浜さん。しかし、今は大学で仲間たちとともに学んだ「音楽」という表現手段を通して、自分自身と人や社会との結びつきを実感しています。

平山英樹 水上修 真栄城興茂 退任記念展

美術工芸学部では、令和2年度をもってご退任された絵画専攻日本画分野教授 平山英樹先生、工芸専攻漆芸分野教授 水上修先生、工芸専攻織分野教授 真栄城興茂先生の退任を記念して、2021年1月に「退任記念展」を開催致しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から観客の安全を優先することを考慮し、対面でのギャラリートークやオープニングセレモニーは実施しませんでした。会場の入り口は卒業生や関係者からのお花で溢れていました。本誌では三名の先生方から学生の皆さんへのメッセージをご紹介します。



「月虹」 平山英樹

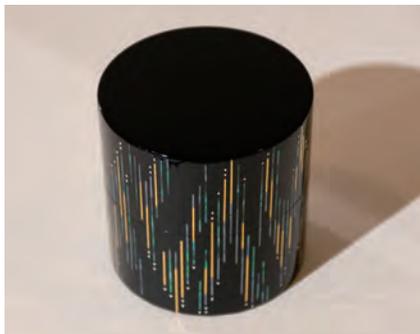
平山英樹 先生

4年間または6年間、学生の制作を観ていますと、彼らにとって確実に転機になる作品に出会います。沈黙する潜行から一気に浮上するような画面が現れて驚かされます。

学生のみなさん、制作を続けていると、なんとなくなりそうだと思う幸せな瞬間が必ずあります。自分を大切に、自分のための時間を過ごしてください。沖縄芸大の学生生活がその後の人生においてかけがえのないエポックとなりますよう心から願っています。

水上修 先生

県外から着任した私にとって琉球漆芸の将来への可能性は非常に大きく感じられます。まだまだ作家も少なく、県内外さらには海外での作品発表も多くの脚光をあびるでしょう。また首里城復興の正殿の漆塗りや琉球漆器の修理・復元など多くの作業が救いの手を待っています。大学での学びを終えた後も漆芸の更なるレベルアップに努め、作品制作や首里城復興へと挑戦する強い気持ちを忘れずに頑張ってください。期待しています。



平文卵殻螺鈿中次「春浅き」 水上修



平山英樹 水上修 真栄城興茂
 退任記念展
 2021年1月8日(金)～12日(火)
 沖縄県立芸術大学
 附属図書・芸術資料館2F 第1展示室



緋織着物「翔」 真栄城興茂

真栄城興茂 先生

コロナ禍で、自粛や制約が多い大学生活を余儀なくされて大変だと思いますが、この状況でも感性を高めて作品制作を進めてほしいと思います。インターネット等で知りたい情報を集めたり、近くの公園などに出かけて自然物を眺めるなど、実践されている方もいるでしょう。一日を意識し、工夫して過ごすということは大切なことだと思います。私も同様に今この時を、少し自分自身を見つめ直したり、想いを巡らせて作品に繋げる時間になることが出来ればと考えています。



左から 水上修先生 平山英樹先生 真栄城興茂先生



左：真壁洋太さん 右：多和田真理さん

写真：志鎌康平

「沖縄の音楽文化を通じて、
地元・茅ヶ崎をより深く知る」

「わたしの舞台はさんぴん茶畑！」

真壁 洋太さん

(音楽学部音楽文化専攻沖縄文化コース3年)

真壁洋太さんは神奈川県茅ヶ崎市で生まれ育ちましたが、沖縄音楽に出会い、三線を沖縄で学ぶため沖縄の県立高校に進学しました。三線や笛の練習に余念がない高校時代を過ごしますが、生まれ育った地元・茅ヶ崎では日本舞踊も習った経験もあり、演奏だけでなく、身体を通して表現することにも興味を持っています。真壁さんは、沖縄の音楽文化を学ぶことを通じて生まれ育った神奈川の地域のことを、より深く考えられるようになりました。「祖父や父が地元の人々と共に祭りを育み、また100年続くコミュニティを大事にしてきたように、自分自身の根っこを大事にしなが、新たなコミュニティづくりを音楽を通じてやってみたい。」——音楽が育む地域のあり方について研究してみたいと希望を膨らませています。

多和田 真理さん

(音楽学部音楽文化専攻 23期卒業・研究生修了)

「大学で学んだことが、今の自分を突き動かしています」と語る多和田真理さん。現在、中城村にある畑でさんぴん茶農家を営んでいる多和田さんは、大学では音楽学を学び、インドネシアのガムランの演奏活動や地元宜野湾市の青年会でエイサーの地謡としても活躍しています。研究生として大学に在籍していた時、先住民族のアボリジニのびととの文化交流のため、オーストラリアを訪れました。この交流を通じて、音楽と自然、そして人びとと土地の関係について関心を持ち、人間環境学や文化人類学の視点から音楽を考えるようになったそうです。また、「玉城朝薫は組踊の作者として有名ですが、総地頭としても有能な方だったようです。きっと、人や地域を大事にする思いが作品にも描写されていると思うんです。」と語る多和田さん。音楽そのものに固執するのではなく、人や社会とのつながりから得た経験を、音楽で表現していきたいと夢を語ります。「わたしの舞台はさんぴん茶畑！」

第31回琉球芸能定期公演

令和2年10月10日(土)



演目・演奏

- ・琉球舞踊『かぎやで風』『天川』『本貫花』『金細工』
- ・創作舞踊『鳩間の主』『太鼓囃子』
- ・組踊『伏山敵討』抜粋～手並みの場～
- ・琉球古典音楽独唱
- ・生田流箏曲合奏



第31回洋楽定期公演

令和2年10月18日(日)



「洋楽定期公演」は、音楽表現専攻各コースによる企画演奏会です。令和2年度は、弦楽コース企画による演奏会を開催いたしました。（※令和3年度は、作曲理論コースによる演奏会を予定しております）

演目・演奏

- ・A.F. セルヴェ/J. ギス共作：「ゴッド・セイヴ・ザ・キング」の旋律による華麗にして協奏的な変奏曲 作品38
(Vn. 岡田光樹 Vc. 林裕)
- ・E. エルガー：弦楽のための《序奏とアレグロ》作品47
- ・A.F. セルヴェ：「オ・カラ・メモリア」によるファンタジーと変奏曲 作品17
(Solo Vc. 林裕)
- ・W. キラール：オラワ
- ・J. プラムス：弦楽六重奏曲 第2番 ト長調 作品36 (弦楽合奏版 / 岡田光樹編)



※令和2年度は、コロナ感染症予防のため入場制限を行い、学内関係者のみに限定して行いました。

附属図書・芸術資料館 令和2年度 自主企画展

琉球の芸術・文化に魅せられて — 鎌倉芳太郎と首里城 —

首里城が火災で焼失してから約1年が経つのを機に、平成の首里城復元の際、参考となる貴重な資料を残した鎌倉芳太郎（1898-1983）に焦点をあてて企画展を開催しました。

染織家・沖縄文化研究者の鎌倉芳太郎は、大正末期から昭和初期にかけて琉球芸術調査を行い、ガラス乾板写真や記録ノート、紅型の裂地や型紙、文書、陶磁器などからなる膨大な量の調査研究資料を残しました。当館には、昭和61（1986）年の開学当時から5回にわたって鎌倉芳太郎の遺族から寄贈された資料が7,553点収蔵されており、その一部は国の重要文化財にも指定されています。

本展では、国指定重要文化財の鎌倉芳太郎資料・調査記録ノートや紙焼き写真など収蔵品を基に、戦前の首里城と戦後に復元された首里城の姿を紹介しました。コロナ禍での開催でしたが、12日間（10月23日—11月3日）で1,528人の入場者を迎え、例年以上に多くの鑑賞者に恵まれ、好評のうちに幕を閉じました。





附属研究所では移動大学 in 伊平屋島を令和2年11月2日(月)、12日(木)の二日間、コロナ感染対策のために本学と伊平屋小学校をオンライン回線で繋ぎ、Zoomによる双方向授業として実施しました。11月2日は「彫刻教室」として本学の河原圭佑講師、長尾恵那講師に講師を務めていただきました。11月12日は「自画像の描き方教室」として本学芸術文化学研究所(博士課程)学生の白砂真也さんに講師を務めていただきました。今回は小学校の授業時間の枠内に収めての実施のため、時間的制約がありましたが、次年度以降のオンライン、オンデマンドを含めた移動大学の開催方法について多くの経験を得ることができました。

令和2年度 社会連携事業

＜ヨミタン大学 × 県立芸大＞読谷のうた「まーすけーい歌」が紡ぐ記憶の旅
於：読谷村文化センター・鳳ホール(2020年11月1日)



＜ヨミタン大学 × 県立芸大＞
読谷のうた「まーすけーい歌」が紡ぐ記憶の旅

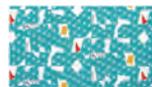
沖縄県立芸術大学 × 沖縄県立図書館連携事業

＜沖芸サテライト・ミニ・ギャラリー＞

vol.3「長尾恵那 彫刻展」(2020年9月9日～9月28日)

vol.4「名護朝和 染色展」(2020年12月2日～12月27日)

vol.5「高崎賀朗展」(2021年1月6日～2月1日)



＜沖芸サテライト・ミニ・ギャラリー＞
vol.4「名護朝和 染色展」

＜Book List 沖芸の先生による、今読むべきこの15冊！＞

- ・vol.3「音楽が生まれる場を読み解く：多文化時代の音楽について考えるための15冊」
(選者：向井大策)(2020年9月9日～9月28日)
- ・vol.4「冬休み！沖縄の民謡と民俗芸能を深く知るための15冊」
(選者：久万田晋)(2020年12月2日～12月27日)
- ・vol.5「彫刻家を選ぶ、美術の本」(選者：砂川泰彦)(2021年1月6日～2月1日)



vol.3
沖芸サテライト・ミニ
ギャラリー&沖芸の先
生による、今読むべきこ
の15冊



vol.4
沖芸サテライト・ミニ
ギャラリー&沖芸の先
生による、今読むべきこ
の15冊



vol.5
沖芸サテライト・ミニ
ギャラリー&沖芸の先
生による、今読むべきこ
の15冊

【絵画】

下地龍斗 (修士1年) 集英社『週刊少年ジャンプ』四コマ掲載 2020年50号11月30日、2021年2号1月8日
白砂真也 (博士2年) 第9回グループ展展 入賞

【彫刻】

小泉ゆりか (修士1年) 「第13回なは市民芸術展」入選

【芸術学】

竹嶋良騎 (学部4年) 第32回卒業・修了作品展 沖縄県立博物館・美術館長賞

【デザイン】

玉元楓 (学部4年) 第32回卒業・修了作品展 北中城村文化協会賞
宮城花林 (学部3年) 沖縄デジタル映像祭2020 優秀賞
石川プリンスエベルジュニア (学部3年) 沖縄デジタル映像祭2020 特別賞
藤紗弥 (学部4年) 中城村の特産品開発 中城城跡のロゴマーク制定
浦崎翔太 (修士2年) A'Design Award and Competition 金賞

【工芸】

<染分野>

浦川愛葉 (修士2年) 第32回卒業・修了作品展 沖縄美ら島財団理事長賞
根路銘まり (修士1年) 三菱商事アート・ゲート・プログラム2020年度奨学金制度奨学生

<陶芸分野>

鈴木まこと (博士1年) 第54回女流陶芸公募展 現代美術文化振興財団賞

<漆芸分野>

大城史織 (修士2年) 第32回卒業・修了作品展 北中城村長賞
上江洲安龍 (修士2年) 第32回卒業・修了作品展 デパートリウボウ賞
前田美海 (学部4年) 卒業制作 日本漆工協会漆工奨学賞

【山本正男賞】

喜屋武澁子 (生活造形専攻) 浦崎翔太 (生活造形専攻) 仁添まりな (芸術文化学専攻)

【西銘順治賞】

岡内天馬 (絵画専攻) 松浦蒼 (芸術学専攻) 新垣太雅 (デザイン専攻) 宮城良美 (工芸専攻)

【令和2年度科学研究費補助金・学術研究助成基金採択】

喜屋武千恵 研究課題「宮良殿内板戸絵の素材及び技法研究～琉球絵画の側面～」
古謝摩耶子 研究課題「モザンビークの多言語状況と音楽実践」
呉屋淳子 課題研究「学校における民俗芸能の実践と継承：『接触体験』としての文化継承の視点から」
城間祥子 課題研究「パフォーマンス心理学に基づいたキャリア教育プログラムの開発」
平良優季 研究課題「孫億筆『花鳥図巻』における技法研究」
藤田喜久 研究課題「琉球列島の洞窟水圏環境における生物多様性の解明」
三島わかかな 研究課題「現代日本の田植え歌の継承・断絶・復活の諸相：集合的記憶と個人的記憶の溝を埋める試み」

【音楽表現専攻】

〈ピアノコース〉

坂田 歩 (学部 2 年) 第 53 回新報音楽コンクール ピアノ部門 第 1 位特賞受賞

宮城勇佑 (学部 3 年) 第 5 回ベートーヴェン国際ピアノコンクールアジア沖縄大会 奨励賞

第 53 回新報音楽コンクール ピアノ部門 第 3 位

吉本美優 (学部 3 年) 第 5 回ベートーヴェン国際ピアノコンクールアジア沖縄予選 D 部門 優秀賞

吉田七星 (学部 4 年) 第 26 回宮日音楽コンクール (主催:宮崎日日新聞社) ピアノ部門 最優秀賞

松尾咲希 (学部 4 年) 第 3 回クリスタル piano コンクール クリスタル大賞、アレンジ部門 1 位

〈弦楽コース〉

島田優香 (学部 3 年) 第 53 回新報音楽コンクール弦楽部門 第 2 位 (ヴァイオリン)

〈管打楽コース〉

永井聡志 (学部 4 年) 第 26 回宮日音楽コンクール (主催:宮崎日日新聞社) 管楽器の部 優秀賞 (クラリネット)

【琉球芸能専攻】

首里城新春の宴 (首里城公園主催)

舞踊 石嶺李安 (学部 4 年)、猪野屋楓 (学部 4 年)、堀川裕貴 (学部 2 年)

嘉数千季 (学部 1 年)、亀谷真亜玖 (学部 1 年)、田島吟 (学部 1 年)

歌三線 波平宇宙 (学部 4 年)、三刀屋美鈴 (学部 3 年)

箏 大城綾音 (学部 2 年)

太鼓 賢江真咲 (学部 4 年)

【大学院 演奏芸術専攻】

〈管弦打楽専修〉

川田桜子 (修士 2 年) 第 53 回新報音楽コンクール管打部門 第 1 位 (フルート)

〈ピアノ専修〉

林郁佳 (修士 2 年) 第 53 回新報音楽コンクールピアノ部門 第 2 位

【大学院 音楽学専攻】

〈音楽学専修〉

鈴木杜萌 (修士 1 年) 「沖縄の自治公民館三線サークルがもつ地域における役割—中央公民館三線サークルとの比較を通して—」、『ムーサ 沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』第 22 号。

山本佳穂 (修士 1 年) 「女性による歌三線演奏の浸透と社会的制度の関わり—琉球古典音楽コンクール、沖縄県立芸術大学、国立劇場おきなわが及ぼした女性歌三線奏者への影響—」、『ムーサ 沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』第 22 号。

第 20 回国際アジア太平洋大学院生学生会議 (2021 年 2 月 11 日～ 14 日・口頭発表)
(ハワイ東西センター主催、ハワイ大学マノア校協力)

【山本正男賞】

宮崎花澄 (舞台芸術専攻) 川田桜子 (演奏芸術専攻) 石橋佐紀子 (音楽学専攻)

【西銘順治賞】

吉田七星 (音楽表現専攻) 座安奈央 (音楽文化専攻) 仲宗根朝子 (琉球芸能専攻)

【文化庁・令和2年度大学における文化芸術推進事業採択】

向井大策「今を生きる人々と育む地域芸能の未来 — 「保存」から「持続可能性」への転換を志向する場の形成と人材育成—」
(ホームページ <https://www.chiikigeinou.com/>)

【受賞】

麻生伸一 第 42 回沖縄研究奨励賞受賞 (研究題目「近世琉球政治社会史の研究」)

【認定】

山内昌也 沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽湛水流」保持者認定 (2020 年 5 月 19 日)



「地域芸能と歩む」HP

【法人化のお知らせ】

沖縄県立芸術大学は令和3年4月1日に、公立大学法人へ移行しました。

表紙作品

「本を読む〜こまったさんのスパゲティ〜」

長尾 恵那

H45×W27×D21cm、樟に彩色、2020年

沖縄県立芸術大学×沖縄県立図書館連携事業

「沖芸サテライト・ミニ・ギャラリー vol.3 長尾恵那 彫刻展」

会期：2020年9月9日（水）～28日（月）

開鐘 (KE-JOU)

開鐘とは、明け六つの開静鐘の優雅な音に
たとえられた三線の尊称です。

沖縄県立芸術大学も開鐘のように

遠か彼方まで鳴り響き、

世界に向かって飛躍する拠点となる事を願い、

広報誌を「開鐘」と名付けました。

沖縄県立芸術大学 広報委員会

2021年5月15日発行

